様式2

都市再生整備計画　事後評価シート
福岡市西部地域地区

平成２３年３月

福岡県福岡市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	地区名	福岡市西部地域地区			面積	781 ha
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	9,048 百万円	国費率	0.42		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路：今宿駅周辺街路、河川：田尻川排水機場整備事業、高質空間形成施設：バスシェルター、江の口川河川環境整備事業、水崎川河川環境整備事業、高次都市施設：地域交流センター
	提案事業	地域創造支援事業：産学連携交流センター 事業活用調査：まちの魅力度調査（事後調査）

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	－	－
	提案事業	地域創造支援事業：地域交流センター	設計変更による防災機能向上により、提案事業から基幹事業へ移行した	基幹事業への移行であるため、目標、指標への影響はなく、数値目標は据え置く
新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設：地域交流センター 土地区画整理事業（都市再生）：伊都土地区画整理事業	地域生活基盤施設：設計変更による防災機能向上により、提案事業から基幹事業へ移行した 土地区画整理事業（都市再生）：事業内容の見直しに伴い、関連事業から基幹事業へ移行した	まちづくりの目標達成に向け、プラスの影響があるが、当初計画に位置付けられた事業（提案事業、関連事業）から基幹事業への移行であるため、目標、指標ともに据え置く
	提案事業	なし	－	－

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
当　初	平成18年度～平成22年度		－
変　更	－		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	駅利用者数	人/日	約1,000	H17	3,100	H22	－	6,100	○	あり なし	土地区画整理事業等の開発が進み、交通結節機能など各種都市機能の整備・充実により、駅周辺の生活利便性が向上したことで駅利用者が増加したものと考えられる。	平成23年6月末
指標2	産学連携交流センターの入居率	%	－	－	60	H22	－	100	○	あり なし	九州大学との産学連携による研究開発ができ、周辺居住環境の整備も進んでいるため、高い入居率を維持していると考えられる。	－
指標3	人口の定着	人	22,900	H17	24,600	H22	－	28,100	○	あり なし	さいとぴあ等の駅周辺の整備による生活利便性の向上とともに、その他都市基盤整備との相乗効果により定住人口が増加したと考えられる。	平成23年4月末
指標4	まちの魅力度	%	－	－	50	H22	－	93.4	○	あり なし	土地区画整理事業等による交通結節機能、生活利便性の向上により、地区の魅力が向上したと考えられる。	－

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	地区内長期居住者が感じるまちの魅力度	%	－	－				91.2			地区内に6年以上居住している方へのアンケートから、各種都市機能の向上による地区の魅力度向上が確認された。	－

4）定性的な効果発現状況

・伊都土地区画整理事業に合わせて西警察署が新設され、地区の防犯機能が向上した。
・田尻川排水機場整備により、地区の防災機能が向上した。
・産学連携交流センター開設以来、国等のプロジェクト獲得6件、研究の商品化1件、「日本学術振興会賞」受賞1名など、入居者（九州大学教授）が様々な場面で活躍している。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	福岡市産学連携交流センターの入居状況の把握	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も同様に継続していく。
住民参加プロセス	タウン・オン・キャンパスまちづくり推進会議の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も同様に継続していく。
持続的なまちづくり体制の構築	タウン・オン・キャンパスまちづくり推進会議による九大伊都キャンパス・センターゾーンと周辺地域のまちづくりに関する企画・提案	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も九州大学伊都キャンパス・センターゾーンと周辺地域のまちづくりに向けた同会議に参加し、連携していく。

様式２－２　地区の概要

福岡市西部地域地区（福岡県福岡市）　都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標

大目標：　～「九州大学」という新たな"宝"を活かした　福岡市西部地域の新たな拠点形成　～

目標1：大学新キャンパス整備を契機とした都市機能の高質化と各種交流機会の創出により、賑わいのある新たな地域拠点の形成をめざす。
目標2：九州大学の知的財産を活用した産学連携強化により、知の交流・創造活動を促進し、新技術・新産業の創出をめざす。
目標3：各種都市機能の充実による生活利便性の増大、安全で快適なコミュニティ形成等により、計画地区における定住促進をめざす。

目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
駅利用者数	単位：人/日	約1,000	H17	3,100	H22	6,100	H22
産学連携交流センターの入居率	単位：%	－	－	60	H22	100	H22
人口の定着	単位：人	22,900	H17	24,600	H22	28,100	H22
まちの魅力度	単位：%	－	－	50	H22	93.4	H22
地区内長期居住者が感じるまちの魅力度	単位：%	－	－			91.2	H22

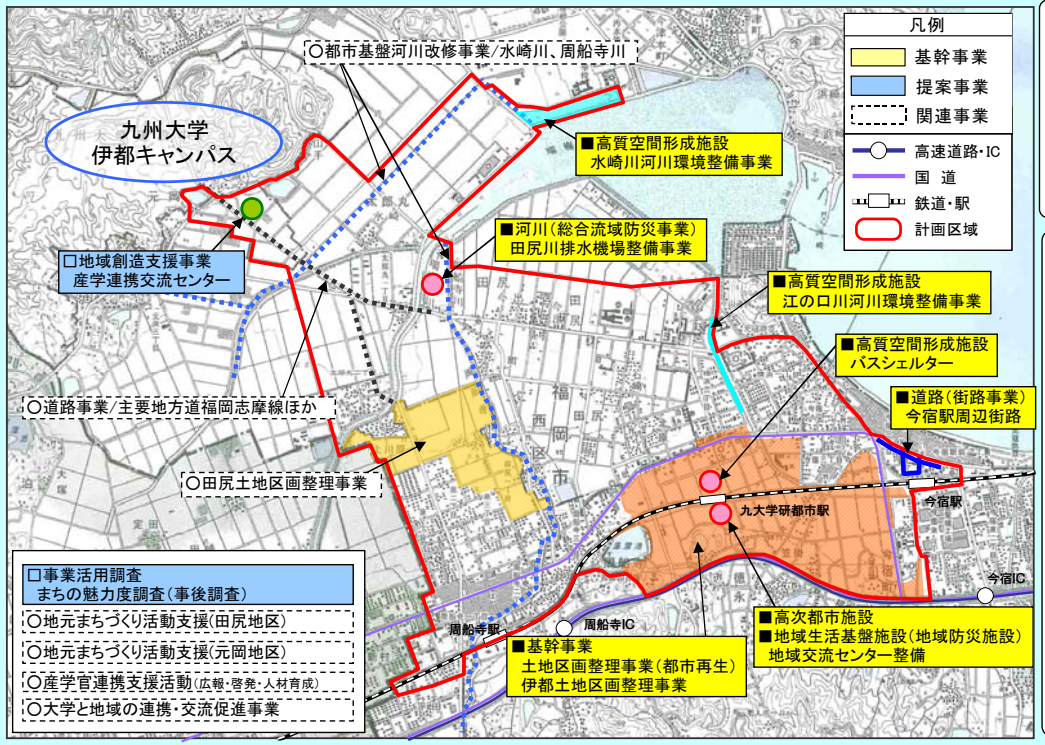
□産学連携交流センターの整備

イベントの様子

■地域交流センター（さいとぴあ）の整備

■田尻川排水機場整備事業

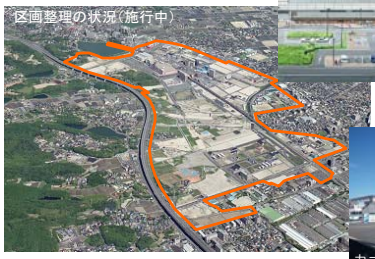
■水崎川河川環境整備事業



■江の口川河川環境整備

■今宿駅周辺街路の整備

■伊都土地区画整理事業



■駅前バスシェルターの整備

九大学研都市駅周辺の状況

学園通線の整備

まちの課題の変化	・新たな拠点である「地域交流センター」や「産学連携交流センター」等の整備により、まちの賑わいや産学連携の一層の強化が図れた。 ・伊都土地区画整理事業等による、安全で快適な定住環境の創出や各種交通基盤の充実が図られ、定住人口や九大学研都市駅の利用者が増加した。 ・定住人口の増加に伴い、コミュニティ活動の支援や学校施設の拡充等の新たな課題が発生している。 ・安全で快適な都市基盤整備のため、伊都土地区画整理事業や九州大学と九大学研都市駅を結ぶアクセス道路は今後も整備していく必要がある。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・新たな拠点地域としての充実を図るために、地域交流センター等の利用促進や地域と大学との交流促進等のソフト施策の展開を図る。 ・新たに基盤整備された地区の自治会等の活動を支援するため、地区コミュニティ活動の場の整備や地区コミュニティの活動を支援し、賑わいのあるまちづくりを推進する。 ・整備された公園等の都市基盤を維持・管理し、さらなる都市機能の充実を図るために、引き続き、伊都土地区画整理事業による基盤整備を推進し、安全で快適な定住環境の創出を図る。 ・九大学研都市駅と九州大学を結ぶ幹線道路の整備による円滑な交通アクセスの確保によって、交通利便性の向上を図る。